

鳥海山

4/28~4/29

メンバー 菅沼、小森官
加藤、川保方

4/28

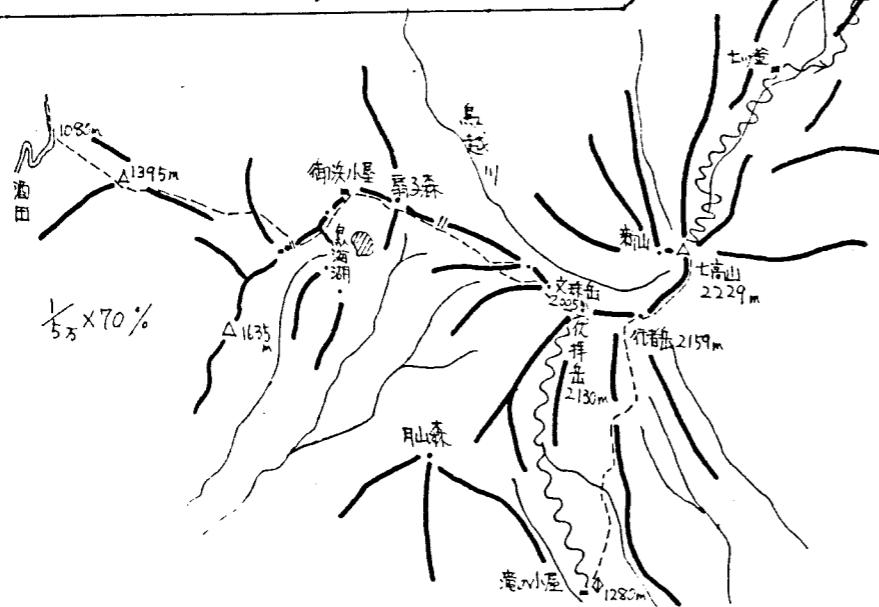
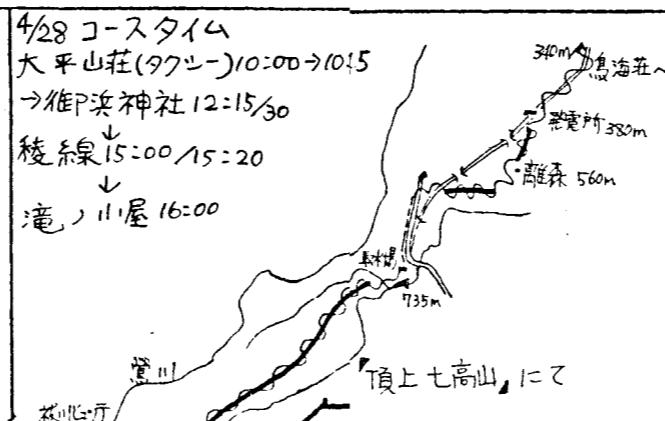
前夜より例車のなかで同じ鳥海山へ行く
西川氏たちと酒田駅よりタクシーで、鳥
海ブルーラインより国民宿舎大平山荘に
着き、そこから鳥海山を目指した。

ヘリコプター事故があるためか、入山
する者はさほど多くなりようである。
先行した西川パーティーの速さに引は
られて我々もピッチを上げた。

天候にめぐまれ、残置されたコース旗を
めりなんうまようこともなく屋根ぎには
御浜神社に着いた。この付近はツボ足では
かなりきぐり、シートラーゲンの二人
組は我々を見て「シールを持つてくれば
良か、たナへ」などと言っていたが、
ビインディングはゲレンデ用のもの。
所々クラストしている斜面もあるが、
全員がウト一を着装していたので、トラ
ブルなく高度を稼ぐことができた。

日本海の海岸線を見渡すことができる展望をほしいままに立珠岳一伏杼岳の鞍
部よりほほ東道どおりにハ丁坂の避難小
屋を目指し滑降を開始した。ショットール
のない無木立の広大な斜面を快速に滑べ
った。あまり滑りやすい雪質ではなかっ
たが、今までの苦しい登高がむくわれる
一時であった。小屋に着いたら中に人が
いた。だがその小屋はなんと違う小屋であ
った。ハ丁坂の小屋は雪にうもれてい

るのであろう。菅沼氏いわく「この雪はと相当岩稜に出来ないといふわれていいだろ？」テントはやめて小屋に泊まろうかなどと考えていたが、寒波リニ干田といふことで、4人でハイキングはバカラしいといふことで、テント泊となつた。多量の牛肉と野菜でのせいたくな夕食を風呂附の健斗を着い八時過ぎにはチュラフに移った。外は風がかなり強く、冷え込みも激しかった。（加藤記）



4/29. 滝の小屋の幕営地は風強く、テントに吹き付ける風の音と鳥の声とで 5:00頃皆起床し、のんびり朝食をとった後 7:24 七高山に向かって出発する。天気は今日も良さそう。程よい絶好のスキーデイ和だ。登る日若干暑すぎた。前日予想以上に下りすぎたため、今日は標高差 1300m 程雪を踏むばらばらの雪が重い。朝方の雪はゆりてしまつても傾斜のきつい所では横ズレてしまつてキックターンが

難しく思える。今回はビニルスキーアイゼンを使つたがこれがあからざる私の力では板をはいたまま押し通すことは無理だ、たと思う。1時間置き位に中休止を取りながら、折り屋根を越える時に14:24を歩いつ踏みこえ、途中でも最後まで板をつけたまま 10:40 2100m の稜線に立つ。30分程度休んで 7高山に向かい、11:50 山頂に着く。さすがに 15人位の先客で賑わっており、1時間の大休止の後いよいよ下降にはいる。今年の島海は雪が多い。七高山からは

どちらへ滑りでも滑りありどこか出来そうな雪の斜面が広がっている。視界 100% で滑り降りルートも目で良く見ることが出来る。雪質の方は良い部分と重い雪が入り混じていたが、急な斜面はゆりと良質で傾斜がなくなるにつれどうしようもなく重い雪がたまっているといった感じで、比較的良い場面では先から滑りを躊躇する雪だった。30分程でセツ釜避難小屋に着く。小休止して、長い下りをまた滑りだす。天気に恵まれたルートの不安がなく、山はやはり天候次第だと思う。滑りながら棒を振り返ると鳥海の山容がいつまでも変わらず健在であり、これまで陰りも頂上の見えるのが印象的だった。雪が多かったので種倉の部落までルート回の通りに下る事が出来、標高差 2000m あまりを2時間半で滑降する事が出来た。予定では4時間位かかるかも知れないという予想だったので、かなり順調に滑れたと思う。バス停まで舗装道路を20分歩き、国民宿舎鳥海山荘前のバス停を 15:40 発のバスに乗って牛島の駅に出る。ここで下山祝いや、2月3日は秋田を廻って夜行で上野への帰路に着く。乗りは結構遅れてオシャズイにしてしまったけど、天気も良かたし、標高差 2000m の滑降は満足感と充実感溢れるものだった。たいして山スキーの山行に行っていない私が偶々行くこんないい思いして良いのだろうかというシバ迫しう連休後半に充分味わうことになろうとは、この時考へても叶わなかったことを申し添えて終ります。（小保方尚子記）

＜タイム＞

滝の小屋 7:30 - 2100m 標高 10:40/11:05 -
7高山 11:50/12:40 - 七釜小屋 13:10/13:25 -
735m 鳴水口 14:15/14:35 - 獣倉部落のつりば 15:00/15:10 - バス停 15:30

NO.00102

840613

7